

ペッカム夫妻の「ボルネオのハエトリ」 池田博明

研修報告書素稿

2011年8月29日

アメリカのハエトリグモ分類学者、ペッカム夫妻に「ボルネオのハエトリ」という大論文があり (Peckham & Peckham, 1907)、42種が新種記載されている。現在でもボルネオのハエトリに関する最重要文献であるが、残念なことに、この論文には一枚も図が無い。いまでは図の無い記載論文は考えられないが、当時は分類学者が種を同定するには、タイプ標本を見れば一目瞭然だから、図が不可欠のものとは考えられなかったのである。じっさいのところ、ペッカムの記載した種はハーバード大学の比較博物館に所蔵されていて、タイプ標本を見るのは決して不可能な仕事ではない。

ただ、各種の再記載に取り組む学者が少なく、ペッカムが記載した42種のうち、図示されたのは15種だけで、残る27種は現在はあまり認知されていないし、当然ながら所属なども検討されていない状態である。標本がサラワク州に偏っているが、これはペッカムが記載したのが、サラワク博物館のキュレーター、シェルフォード R.Shelford が収集した標本だったからである。

今回のボルネオの研修旅行には、ペッカムが記載したハエトリにひとつでも会えればという目的で参加した。

ペッカムはシモンの分類にしたがって後牙堤歯数で大きく多歯・裂歯・単歯に分けてから記述している。この大分類は人為分類として批判を受けた時期もあったが、最近はある程度系統を反映した分類だったと再評価されている (Maddison and Hedin, 2003)。ここではペッカムの論文を後牙堤歯と大きさで分けて解説する。なお、各種の学名の前の番号は今回付けた整理番号で、その種の出ている論文のページ番号で、603から始まり、652に終わる。

多歯ハエトリ plurident

多歯ハエトリはアリグモ亜科と原始的な形質をもつクチバハエトリグモ亜科を含む。

(1) 中形サイズ (5mm 以上、10mm 未満)

603 *Myrmarachne shelfordii* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5mm male from Sarawak described by YAMAZAKI.

604 *Myrmarachne borneensis* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8.5mm male from Sarawak described by YAMAZAKI.

上記2種のタイプ標本は山崎健史によって再記載されたが、今回は観察できなかった。

605 *Portia crassipalpis* (PECKHAM & PECKHAM, 1907). 5mm male from Sarawak described by WANLESS. 原記載は *Linus* 属。

アミカケハエトリグモ属 *Portia* はメス成体が谷川明男によってマリアウ河の吊り橋の下から発見された。東南アジアから数種類が記載されているが、雄だけの記載も多く、どの種も外観は似ているため、本種を同定することは出来なかった。ペッカムの記載もオスだけである。



糸で住居を作り、そのなかにひそむ中形の多歯ハエトリ（どれもメスだった）が何種類かいたが、それらは *Mintonia* 属だったり、クチバハエトリグモ属=*Spartaeus* 属だったりした。

(2) 小形サイズ (5mm 未満)

606 *Cytaea armillata* (PECKHAM & PECKHAM, 1907). 4.8mm male described by WANLESS, with female description. 原記載は *Cyraba* 属 .

裂歯ハエトリ fissident

(1) 中形サイズ (5mm 以上、10mm 未満)

607 *Canama rutila* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 7.5mm female from Sarawak

609 *Mantius difficilis* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5.5mm female

610 *Mantius armipotens* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 6.5mm to 10mm male from Sarawak.

612 *Maileus fuscus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5.5mm female from Sarawak described by ZABKA.

612 *Ptocasius gratiosus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8.2mm male from Singapore.

614 *Ogdenia mutilla* (PECKHAM & PECKHAM, 1907). 10mm female from Kuching described by PROSYNSKI. 原記載は *Rooseveltia* 属.

616 *Goajara crassipes* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8.2mm male from Sarawak described on *Epocilla calcarata* (KARSCH, 1880) .

617 *Vailima masinei* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5.5mm male described by PROSYNSKI.

(2) 小形サイズ (5mm 未満)

608 *Microhasarius animosus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 4.2mm male and 5mm female from Sarawak.

単歯ハエトリ unident

(1) 大形サイズ (10mm 以上)

627 *Hyllus nebulosus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 11mm female from Bidi.

628 *Hyllus pulcherrimus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 11mm male and 14.5mm female.



デカハエトリ属 (仮称) *Hyllus* はガジャ河 (ガジャは象を意味する) の河川敷で 1 雄成体が発見された。既知の種の触肢で探索すると、*Hyllus lacertosus* (C.L.KOCH, 1846) と同定できる。プルシンスキーが再記載したのはジャワ島の標本である。ボルネオ産は RTA の先端の歯型が明瞭な点でやや異なる。*H. lacerosus* はベトナムからジャワ島、スマトラ島、ピンタン島から報告されている。コッホは *Plexippus* 属として記載し、その後、トレルは 1892 年の『マレーシアからパプア・ニューギニアの研究』にボルネオ産の *Plexippus lacertosus borneensis* を報告している。トレルの記載はラテン語で、しかも図が無いが、コッホの記載した種とやや違いがあるため亜種と判断したと思われる。

ところで、ベッカム夫妻が新種とした *Hyllus pulcherrimus* の記載を読むと、今回の発見個体に当てはまる点が多い。ベッカムの記載でもっとも重要な点は腹部背面が鮮やかなメタ

リックな緑色であるという点である。実際には緑色というより金色だが、金色はメタリック・グリーンと表現されることが多い。

(2) 中形サイズ (5mm 以上、10mm 未満)



619 *Ergane benjarei* (PECKHAM & PECKHAM, 1907). 9mm male by described by ZABKA. 原記載は *Afiola* 属.

マリアウ・ベイシンで観察した1メス成体(体長9mm)は外雌器から、ベリーらが1996年にカロリン諸島などから雌雄を記載した *Ergane carinata* BERRY, BEATTY and PROSZYNSKI, 1996 のメスの外雌器と酷似している。ところで、ペッカムが記載した *E. benjarei* はオスのみの記載で、ザブカが再記載した触肢図は *E. carinata* の触肢図(プルシンスキーの描画)にそっくりである。同じと言ってもよい。つまり、*E. carinata* = *E. benjarei* かもしれない。*E. benjarei* のメスは未記載であるから、本個体が *E. benjarei* のメスである可能性が高い。

マレーシアのチェックリストには *Ergane* 属は載っていない(Norma-Rashid & Li, 2009)。

620 *Bathippus shelfordii* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8mm male described by ZABKA.

ナミダアトハエトリグモ属(仮称) *Bathippus* は一種をマリアウ・ベイシンのガジャ河の河川敷で観察した。体長約8mmのメスであった。ペッカムがこの学名で記載したのはオスだが、メスの斑紋は基本的にはオスと同様である。ザブカがオスと同時に記載したメスと外雌器の構造が一致した。この個体は腹背の黒点が少し大きくつながっている箇所がある点が、ザブカの記載したメス個体とやや異なるが、斑紋の個体変異と判断しておく。



マレーシアのチェックリストには本種は載っていない。ナミダアトハエトリグモ属は2種が挙げられているが、オスだけが記載されている *B.pahang* ZHANG, SONG & LI, 2003 とは違う。オスだけが記載されている *B.schalleri* SIMON, 1902 (Norma-Rashid & Li, 2009) は図が無い。

623 *Bathippus serenus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 6.7mm female described by ZABKA. same as *Bathippus shelfordii* female.

本種は *Bathippus shelfordii* のメスであった。

621 *Bathippus sedatus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 6.3mm male and 6.7mm female from Mt. Pennissata described by ZABKA.

624 *Carrhotus olivacea* (PECKHAM & PECKHAM, 1907). 5mm male *Eugasmia* from Sarawak. 原記載は *Eugasmia* 属。

626 *Erastinus gracilis* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5.5mm male from Sarawak described by ZABKA.

629 *Miargaromma spatiosa* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5.5mm male.

630 *Orsima ichneumon* (SIMON, 1901). 6.5mm male from Kuching and 7mm female from Sarawak described by ZABKA. 原記載は *Orsima formica* PECKHAM & PECKHAM, 1907 .

632 *Pseudamycus sylvestris* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 10mm female.

633 *Pseudamycus amabilis* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 9mm female from Sarawak.

634 *Palpelius arboreus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 6.8mm male.

634 *Palpelius albofasciatus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 7mm female from Sarawak.

636 *Palpelius nemoralis* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 10mm male.

637 *Pancorius fasciatus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8.5mm male.

637 *Pancorius animosus* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8.5mm female.

アシプトハエトリグモ属 = *Pancoris* 属は今回は見られなかった。

639 *Telamonia resplendens* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 4.5mm female.

640 *Telamonia cristata* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 5.9mm male from Manila.

641 *Telamonia annulipes* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 6.5mm male.

タテスジハエトリグモ属 = *Telamonia* 属は今回は見られなかった。

643 *Taivala invisitata* PECKHAM & PECKHAM, 1907. females from Sarawak described by PROSZYNSKI.

644 *Epeus mirus* (PECKHAM & PECKHAM, 1907). 7mm female from Sarawak described by PROSZYNSKI.

ワカバハエトリグモ属(仮称) *Epeus* はマリアウ・ベ
ィシンとタンブナンの両方で観察された。写真は葉裏で
卵をガードしているメス。卵に糸をかけずにガードして
いる様子はたいへん珍しい生態である。本種はトレルが
1887年に *Viciria* 属としてメスを記載した *Epeus*
alboguttatus (THORELL, 1887)と同定できた。ペッカ



ムは *mirus* を新属の *Taupoa* 属として記載したが、特異な外雌器からはトレルの記載した
種と同種の可能性がある。マレーシアのチェックリストにワカバハエトリグモ属は2種
E.flavobilineatus (DOLESCHALL, 1859)と、*E.glorius* ZABKA, 1985 が載っている。

645 *Viciria concolor* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 10mm male from Sarawak.

ペッカムが記載した *Viciria* 属は7種にもなるが、この属はいろいろな形態の種が混在し
ていて、整理されていない。中形でも大きめの種なので目立つはずであるが、再記載も進
んでおらず不明のままである。今回の調査では大きめの個体はほとんどないため、この属
に該当すると考えられる種は無かった。

646 *Viciria arrogans* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 9mm male and 9.5mm
female.

648 *Viciria miranda* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 7.5mm male.

649 *Viciria lucida* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 8.5mm female.

650 *Viciria paludosa* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 7.5mm male.

650 *Viciria petulans* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 9-11mm male.

652 *Viciria maesta* PECKHAM & PECKHAM, 1907. 9mm male.原記載の *moesta* は
誤植。

謝辞

トレル及びノーマ・ラシッドの文献は谷川明男博士に見せていただきました。記して感
謝致します。

参考文献

- Norma-Rashid, Y. and Li, D., 2009. A checklist of spiders (Arachnida: Araneae) from Peninsular Malaysia inclusive of twenty new records. *Raffles Bul.Zool.*, 57:305-322.
- Maddison, W.P. and M.C. Hedin, 2003. Jumping spider phylogeny. *Invertebrate Systematics*, 17, 529-549.
- Peckham, G. W. and E. G. Peckham. 1907. The Attidae of Borneo. *Transactions of the Wisconsin Academy of Sciences, Arts, and Letters* 15: 603-653.
- Prosznski, J. 2007. Monograph of the Salticidae of the World. On Internet URL, <http://salticidae.org/salticid/main.htm>
- Thorell, 1892. Studi sui Ragni Malesi e Papuani. IV, 2. *Ann. Mus. civ. stor. nat. Genova*, 31: 1-490.
- Yamazaki, T., 2010. Redescription of two Bornean species of the genus *Myrmarachne* (Araneae: Salticidae). *Acta Arachnologica*, 59 (2) 63-66.